

A15b

## 鹿島 34m、臼田 64m アンテナによる Crab パルサー観測から得られた Giant Radio Pulse の発生時間頻度分布

関戸 衛 (情報通信研究機構), 寺澤敏夫 (東大宇宙線研究所), 岳藤一宏 (情報通信研究機構)、竹内央 (JAXA/宇宙科学研究所)、田中康之 (広島大学)

我々は、NICT の鹿島 34m アンテナ、および JAXA/ISAS の臼田 64m アンテナの L-band および S-band の受信機を使って、かに星雲の Crab パルサー (PSR B0531+21) から放射される Giant Radio Pulse (GRP) の観測を行っている (日本天文学会 2011 年春季年会 V44c, J46b; 日本天文学会 2011 年秋期年会 V89a, 日本天文学会 2012 年春季年会 A14a)。GRP の発生時間頻度はポアソン分布に従うことが報告されているが (Jundgren et al., ApJ453,433,1995)、我々の観測結果についても GRP の検出頻度分布を調べたところ、ポアソン分布に従うことが確認できた。しかし、観測周波数や、観測エポックによって単位時間当たりの GRP 検出頻度は大きく異なっている。この主な原因は屈折性の星間電離媒質によるシンチレーション (RSS) の影響であろうと考えている。本発表では GRP の時間発生確率の観点からこれまでの電波の観測結果をまとめて報告する。